

ロボットシステム販売伸ばす

現在 3億円 早期に年間売上高10億円

金陵電機



高安取締役と高田課長

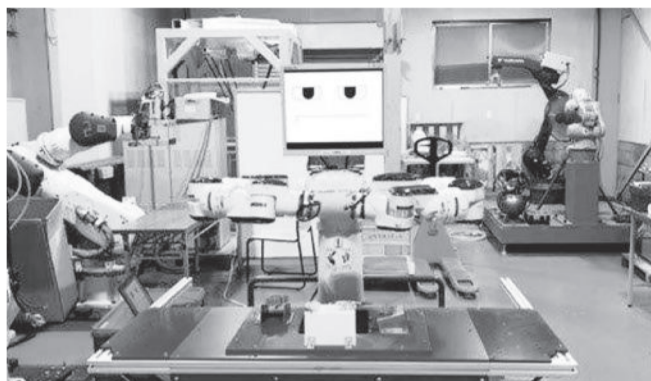


6軸垂直関節ロボットと2Dビジョン制御システム

導入検査やサンプリングテストなど

ロボット事業は、同社が一次代理店となっている安川電機および横河電機製品を主体としたモーター、インバータ、計測器などの産

品を製造するメーカー部門のテレコムビジネス、グループ会社との関係を強化、融合することでオリジ



システムテストセンター

業用電機品とともにも、FAシステムビジネスで手がけている。FAシステムビジネスの担当役員・高安慎一は「当社はFAシステムビジネス、分析器ビジネスの技術商社としての活動を核に、国内シェアナンバーワンを誇るクレーンの遠隔操作の遠隔操作を製造するメーカー部門のテレコムビジネス、グループ会社との関係を強化、融合することでオリジ

金陵電機(大阪市淀川区、澤田力哉社長)は、ロボットシステム販売を伸ばしている。省人化や自動化を検討する中堅中小企業の現場へ移動架台に載せたロボットを持ち込んだ導入検証や、自社のシステムテストセンター(大阪府豊中市)でユーザーとともに、ロボットが作業するワークのサンプリングテストなど地道な提案活動を展開。現在は3億円のロボット事業年間売上高をまず5億円に引き上げ、できるだけ早く倍の10億円にするのが目標だ。

地道な提案活動を展開

ロボットシステムと組み合わせた認識(システムテストセンター)

は2D・3D・CADやシミュレーションツールを使ってアイデアのテスト方法やシステム構築を提案。興味を示したユーザーには、同社システムテストセンターでワークの把持や組み立て、箱詰めなどの検証および、持ち込みハンドのテストなどを実施。

それら検証やテスト結果を報告した上で、本格的なロボットシステムの設計・製作に入る。テストデータに沿って製作した後は素早く納品して立ち上げ、稼働。

導入・稼働後のメンテナンス、修理、改造などのアフターフォローまで同社で対応するワンストップサービスを提供している。



独自開発のチェックバルブを設けた多品種、多サイズ対応吸着式ハンド

「MOTOMAN-HC1」を載せ、安全柵が不要な人協働ロボットの体感も可能。ユーザーの現場に持ち込み、試し使用する要望にも応える。

FAシステム営業部エンジニアリング課兼セールスサポートの高田諭士課長は「ロボットシステムを導入したいがリスクは最小限に抑えたい、というお客さまの声に応えようとシステムテストセンターを作り、積極的に活用してもらっている。検査機投入ロボットシステム、バリ取りロボットシステム、自動加工ハンドシステム、自動加工ハンドリングロボットなどの導入につながった」と話す。

吸着面にチェックバルブを設け、ワークが接触しない所があっても把持でき、ワークのサイズが変わってもチェックバルブの開閉で多品種のワークに対応する独自設計ハンドのデモも行う。ハンドの相談にも乗り、ワークや現場に応じた最適なロボットシステムを提案している。

アジレント・テクノロジ社製理化学機器の近畿地区専門代理店としてアジレント・テクノロジ製品と他社製品のコラボレーション開発、販売、サポートに力を入れる分析ビジネスでも、FAシステム営業部が入る大阪市淀川区のビル1階に分析機器をそろえたテストラボを設置。ユーザーがサンプルを持ち込んで測定評価できるトータルサポート体制を敷き、西日本トップのアジレント・テクノロジ製理化学機器の販売実績を上げている。

